

「海外から学ぶ税金」

松田町立松田中学校 3年 岡 虹海

私は、税と言ったら私たちを助けてくれるもの、という漠然なイメージしかありません。社会には様々な税があり、それぞれの行く先すらあまり知りません。なので、作文をきっかけに調べてみました。

まず分かったのが、税金は色々な問題を抱えていることです。今は年金問題や少子高齢化に対する税への影響など数年では解決できそうもないものがたくさんありました。そこで私が思ったのは、日本で税金の問題が取り上げられているのなら、海外の税金事情はどうなっているのか、と。かつて日本は法律、自国の方針にもなる憲法を海外から学び日本で他国の憲法に習ったものをつくってきました。それならば税でも海外から学べるのではないかと思い調べてみました。

すると、海外にはとてもユニークな税があることを知りました。例えば、ヨーロッパにあるハンガリーで導入されている健康増進税、通称ポテトチップス税です。この税金は国民の健康維持・肥満防止を目的とされていて、ポテトチップスだけでなく、スナック菓子や清涼飲料水といった、塩分や糖分の高い食品にもかけられている税金です。

この他に海外と日本の税を比較し分かったことは、日本の税の国民の負担率は国際的に見ても決して高くはないということです。データを見ても OECD 加盟国の中では、2020年の国民負担率では日本は36か国中22番目に位置しています。

しかし、日本人の私たちは、「増税」を厳しい目でみています。この違いは、税に対する意識が日本とは違うことを示していると思いました。例えばデンマークの消費税は25パーセントと負担は大きいですが、国民一人一人が税によって自分が支えられていると実感し、安心感をもっていることです。逆を言えば日本はそれをもっていないということになります。高齢者には、福祉が手厚いというイメージがありますがその他の国民は恩恵を受けていないと感じてしまうため、税に否定的な考えがうまれてしまいます。

このように、日本と海外の税金を比べると税に対する国民の考えが重要だと学びました。税金はお互いを助け合うものですが、税金を払うこと自体が苦しくなるとは、本末転倒です。日本の今は年金を貰ってもなお、たらない老後2000万円問題があるなど、安心感を得られる税金の政策が必要だと思います。そのために私たちも増税という考え方を最初から否定するのではなく、よく考えて少しずつ意識を変えていくことが大切だと思います。